

2018 / 1月号

vol.10

新年特別号

真心明るく 正しく



特集

脳卒中リハビリテーションへの取り組み

新井院長と森脇医師による 対談

- 新年のご挨拶
- 本年着任した医師のご紹介
- 女性医師、女性スタッフによる検査・外来のご案内

みどりヶ丘病院広報誌

私たちは真心の医療と福祉を通じて、地域の人々に貢献します

新春

あけましておめでとうございます

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
本年も職員一同、一丸となりサービス向上に尽力して参ります。
2018年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。昭和46年12月に病院が創立され、46周年になりました。創立50周年に向けて、50周年記念事業計画の具現化を加速してまいります。医療・介護の質の向上のために、建物の改築や組織力を強化し、患者様へのサービス向上に努めてまいります。

4月には医療報酬・介護報酬の改定とその土台となる医療法も改定が予定されており、国は医療・介護費の増加を抑制してきます。北摂地区の医療・介護崩壊が生じないように、みどりヶ丘グループは全力で地域医療に貢献してまいります。

理事長 甲斐 史敏



新年おめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

本年は、地域のために共に歩んでいくというみどりヶ丘病院の方針を具現化するため、近隣の医療機関や施設との連携を強化し、予防医学講座、健康教室などを通じて地域の方々との結びつきを更に深めていきたいと考えています。

超高齢化社会を迎え、私達社会医療法人祐生会の果たすべき役割が強く問われています。「地域包括ケア」のゴールと言われる2025年に向けて、皆様が住み慣れた地域で健やかな日常生活を送れるよう、サポートする事が重要な課題となってきます。そこで、医療施設と介護施設を持ち、更には在宅医療支援病院の機能を備えた当法人が果たす使命は大きいのではないかと感じています。

本年も、法人理念である「真心の医療と福祉を通じて地域の人々に貢献します」の言葉を胸に、Total Human Careを目指し、尚一層地域の皆さまの声にお応えできるよう努力して参ります。

病院長 新井 基弘



健やかに新年をお迎えのことと拝察致します。整形外科は昨年度より関節外科(股関節・膝)診療の充実を図っています。患者目線に立った安全で正確な手術を心がけ、必ず地域の皆様、開業の先生方のお役に立てると信じています。よろしくお願い申し上げます。



副院長 山添 勝一

新年あけましておめでとうございます。外科および救急科の長としてごあいさつ申し上げます。外科は、昨年は前年度と同様の手術数を行いました。また、昨年は「救急科」を発足させて救急対応の拡充を目指しています。「急に痛くなった」、「苦しい」、「出血が止まらない」、こんな時に頼れる病院であるために今年も努力してまいります。



副院長 西植 隆

新年あけましておめでとうございます。私の専門分野は放射線科診断、老年期医療ですが、今年は健診事業を含めた予防医学にも力を注ぎたいと思っております。旧年中に引き続き、地域医療に必要とされる役割をはたしていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



副院長 堀 浩

あけましておめでとうございます。今年も地域の方々に安心していただけるよう、安心安全な医療を行ってまいります。私自身内科医であり、肺炎・糖尿病・フレイル(虚弱)などの疾患・病態を診療対象としています。また、病院全体の医療安全について、知識・技能を身に付けてまいります。今年もよろしくお願いいたします。



副院長 高橋 郁夫

新年あけましておめでとうございます。より地域の脳卒中医療の向上に貢献できるよう、脳卒中医療に携わる職員全てが同じ方向を向いて一生懸命頑張る心意気を持ち、仕事に従事していく所存です。今年もよろしくお願いいたします。



副院長 高橋 一浩

新年あけましておめでとうございます。みどりヶ丘病院は今年も患者様一人ひとりのニーズに添えるよう、そして当院を受診してよかったと思っただけのよう、職員一同努力し地域医療に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 谷村 光啓

脳卒中リハビリテーションの取組み



病院長

新井 基弘



リハビリテーション科 部長

森脇 美早

診療科の垣根を越え、医師、看護師、セラピストが連携し “攻めのリハビリテーション”を展開

攻めのリハビリテーション

急性期にも回復期にもリハビリテーション科医が介入できること

新井院長: 当院は、脳卒中の治療において急性期と回復期が同じ施設にあり、急性期の治療から間を置かずリハビリテーション科の専門医によるリハビリ医療が受けられることがひとつの特長だと思うのですが、日々診療にあたっている森脇先生はどのように感じていますか。

森脇先生: 急性期から引き続いて、徐々にリハビリにシフトしていける形で治療に介入できるというのはとても良いと思います。脳外科医をはじめ、急性期の看護師、薬剤師、セラピストなど、治療に関わるスタッフとのコミュニケーションも非常に活発です。ひとつのチームとしてスタッフの連携がとれているため、回復期に急性期疾患を再発した場合もスムーズに対応ができるので、“攻めのリハビリテーション”が行えます。

新井院長: なるほど。早い段階からリハビリ専門の医師に介入していただくことで、脳外科医は急性期の治療に専念できますし、患者様も早期回復が望める、非常に大きなメリットがあると思います。しかも、先生方は急性期から治療に介入されていて、まさに“攻めのリハビリテーション”ですが、どのようなきっかけでそういった取り組みを始めようと思ったのですか？

森脇先生: 急性期の治療後に誤嚥性の肺炎を引き起こしたり、二次的な合併症を発症したりするケースが多くみられ、リハビリテーション科の視点から、治療に早期介入することでそれを防げないかと考えたことがひとつ。

また、早期離床の観点から、早くから装具療法を行い、早期歩行を可能にする支援ができるのではないかと考えて、急性期からの介入を始めました。内科の医師からは、二次的な肺炎などを起こす患者様がとても減ったと言っているため、一定の効果はあると感じています。

みどりヶ丘病院リハビリテーション科特長 その1 嚥下回診評価

新井院長: 確かに、急性期から回復期リハビリ病院に転院した患者様で、肺炎により急性期病院に戻ってしまうケースは非常に多いと聞いています。しかし、当院においてはこの2年ほどの間に誤嚥性の肺炎はかなり減りました。現在、先生おひとりではなく、セラピストや歯科衛生士など、多職種のスタッフを伴って嚥下回診をされていますが、あのような体制を作るにはご苦労があったのではないですか？





ロボットリハビリテーションの様子



干渉波刺激装置での嚥下リハビリテーションの様子



森脇先生:他の病院では実施していないアプローチだったので苦労はありましたが、みどりヶ丘病院には歯科衛生士も常勤しているので、非常に強い味方を得ていると思います。歯科衛生士をはじめ、セラピストや看護師も意識が高く、チームでアプローチすることがスタッフのモチベーションに繋がっているようにも感じます。脳外科の症例検討会にも出席して治療方針などを直接聴けるので、その後の回復期の治療や、装具治療、嚥下治療の開始時期を検討するのも非常に役立っている、良い連携ができていると思います。

みどりヶ丘病院リハビリテーション科特長 その2 フットワークとリスク管理

新井院長:リハビリテーション科のスタッフを見て感じるのは、対応の速さ、フットワークの軽さです。病棟の看護師も、嚥下回診以外に少しでも患者様の様子が気になれば嚥下評価を行うという流れが定着しています。これは先生の教育の賜物ですね。

森脇先生:ありがとうございます。“フットワークの軽さを大切に”ということは、常々言っています。通常の嚥下評価の依頼は入院時が多いのですが、可能な限りその日のうちに診に行くことを徹底しています。その結果が次の治療にもつながっていくので、やはり素早い対応が大切です。

新井院長:先生のそのようなスタンスがスタッフにもしっかりと浸透していて感心させられます。脳卒中による入院というと、以前は最初の一週間ほどは点滴を行ない安静にしているというのが一般的でしたが、当院ではおそらく2日以内にほぼ100%リハビリの依頼が出て、そこから24時間でリハビリの介入が始まる。急性期における早期のリハビリの介入というのが定着していますね。

森脇先生:はい。定着していると思っています。

新井院長:リスクに関しては、バイタルチェックを非常に徹底されていますね。健康な方でも3日くらい安静にしていれば筋力は落ち始めます。それを極力抑えるという

方針で早期リハビリを実践されていて、安全、かつ慎重な取り組みでしっかりとリスクを遠ざけているんですね。

森脇先生:早く離床する分、しっかりとリスク管理を行うことは非常に重要です。嚥下評価も同様で、不要な絶食を避けるためにも適切な評価を行ない、しっかりと食べてどんどん動いていただくことで、早期退院、早期回復の支援になればと思います。

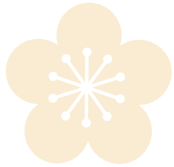
脳卒中のチーム医療 —脳神経外科とリハビリテーション科の連携—

新井院長:先生が来られてから、リハビリテーション科の治療方針がしっかりと固まったと同時に、治療の引き出しが増えたと感じています。もう無理かなと思っていた患者様がリハビリを経て運動機能、高次脳機能が改善する様子を見てみると、本当にありがたいと思います。リハビリに関する新しいノウハウや、新しいシステムも登場していると思いますが、そうしたものも取り入れていこうとお考えですか？

森脇先生:リハビリテーション医療はどんどん進んでいきますので、先端的なリハビリテーションを積極的に取り入れていきたいと思っています。具体的には、今年からロボット型の装具を装着して上肢や下肢の機能を改善させる、ロボットリハビリテーションを二つ導入する予定です。これには、その人の能力に合わせて柔軟に難易度を調整できるという利点があります。

新井院長:脳卒中センターとしては、今後も急性期の脳卒中患者様の受け入れには力を入れていきたいと思っていますし、新しい治療法も積極的に取り入れていこうと考えています。脳卒中の治療は急性期だけで終わることはありません。森脇先生にもお力添えをいただき、当院の中核部門として、さらに患者様のためになるよう発展させていきましょう。今後とも、よろしくお願ひします。

森脇先生:こちらこそ、よろしくお願ひいたします。



本年度着任医師のご紹介

本年度より6名の医師が着任いたしました。

今後も医療体制をより一層充実させていきますのでよろしくお願いいたします。

新任医師 による 座談会

麻酔科

津田 和信

(つだ かずのぶ)

ひとことメッセージ

昨年4月よりみどりヶ丘病院で勤務させていただいている津田です。患者様およびご家族に安心を与えられるような医療を心がけております。今後ともよろしくお願いいたします。

消化器内科

邊見 雄二郎

(へんみ ゆうじろう)

ひとことメッセージ

昨年4月より赴任させていただきました。みどりヶ丘病院では、消化器全般、内科疾患を担当させていただいております。地域の皆様のお役に立てますよう努力して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

整形外科

池上 徹

(いけがみ あきら)

ひとことメッセージ

昨年3月から赴任させていただきました。医学的根拠に基づいた治療を心がけ、何事にも誠心誠意でありたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

池上:赴任してもうすぐ1年ですが、いかがですか。私は、大学院で股関節疾患の一つである特発性大腿骨壊死症の研究を行っており、現在は股関節だけでなく整形一般疾患についても診察を行っているのですが、みどりヶ丘病院は他科との垣根が低くチームワークが素晴らしいと感じています。

津田:この規模の病院としてはフットワークの軽いドクターが多く、それがチームワークの良さにつながっているのだと思います。

池上:若手の人材が多く教育制度もしっかりと整っていて、若手にとって非常に働きやすい環境ともいえますね。

邊見:そうですね。緊急・救急疾患の対応はもちろん、鎮静剤の使用で患者様の苦痛を最小限にするといった治療も行っていて、学ぶべきことは多いと思います。

津田:私は手術麻酔全般を担当していて、常に「安心・安全・確実」を心がけているのですが、先生方が治療にあたって特に気をつけていることなどはありますか。



池上:患者様の不安な気持ちを取り除けるよう、治療方針についてしっかりと説明することです。共にニコリと笑顔になれるように、いつまでも治療を支えることができればいいなと考えます。

邊見:私の専門は下部消化管なのですが、若い世代に炎症性腸疾患の患者

様などが増えています。仕事を続けながらの治療は大変ですが、患者様の目線に立ち、共に病気に立ち向かっていく医療を目指しています。

津田:なるほど。専門分野は異なりますが、与えられた職務、職責を確実にこなすと同時に、無理をして事故を起こすようなことがないよう心掛けていきましょう。

池上:そうですね。常に医学的根拠に基づいた治療を心がけ、何事にも誠心誠意でありたいと思います。

邊見:土曜日の外来や検査も可能で、仕事をされている若い世代の患者様にもしっかり対応している病院です。地域の皆様のお役に立てるよう努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

2017年秋より着任いたしました。



整形外科



杉谷 和哉 (すぎたに かずや)

昨年10月から、みどりヶ丘病院整形外科で勤務することになりました杉谷和哉と申します。整形外科領域の中では膝関節を専門としており、特に人工膝関節置換術などに積極的に取り組んできました。膝の痛みで困っている方がいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。

何卒よろしくお願い申し上げます。

麻酔科



内藤 慶史 (ないとう よしふみ)

昨年10月から麻酔科に着任いたしました。手術麻酔全般を専門にしております。近年は麻酔薬やモニタリング技術も進歩し、以前に比べて比較的安全な麻酔管理が可能になりましたが、高齢化社会を迎えた今、手術を受けられる患者様のリスクは以前よりも高くなっています。安全に周術期を乗り越えるために、患者様一人ひとりに適したテーラーメイドな麻酔を提供していければと思っております。よろしくお願いいたします。

消化器内科



金泉 美紗 (かないずみ みさ)

この度、みどりヶ丘病院とご縁があり9月より勤務させていただいております。消化器内科医として上部消化管内視鏡検査や大腸内視鏡検査などを中心に、消化器内科の先生方とともに日々勤務しております。医療は日々進化しています。内視鏡検査もその一つであり、検査の際に使用するカメラも以前と比較すると細くなり、検査を受ける患者様の負担も軽減されているように思います。内視鏡検査は怖そうと感じる方もいらっしゃいます。そんな方は眠りながら内視鏡検査を受けて頂くことも可能です。当院外来で相談してみてください。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

女性医師
女性スタッフによる
検査・外来



女性のための 大腸内視鏡検査 乳腺外来

検査は受けたいけど抵抗がある、という方も多いのではないのでしょうか。当院では、女性医師(専門医)と女性スタッフが対応し、少しでも心理的負担を軽くするよう心がけています。乳がんや大腸がんの早期発見・早期治療のために、定期的な検査をおすすめします。

ご予約時はお気軽に「女性医師希望」とお伝えください。リラックスして検査を受けられるようにお手伝いいたします。

ご予約・
お問合せはこちら

TEL. **072-681-5838**

乳腺外科の外来診察日は毎週月曜日13:00~16:00です



健康教室が変わります！



みどりヶ丘病院では今まで病院内で健康教室を開催してきましたが、地域の皆様にもっと身近な場所での開催を検討しています。

日頃の健康に関することや専門家からのアドバイスなど、わかりやすい内容でこれからも行っていきます。「私の住んでいる街でも開催してほしい!」「こういうテーマを取り入れてほしい!」などがありましたら、1階外来待合室の自動販売機横にご意見箱がございますのでお寄せください。

こんなテーマの講演を開催しています

糖尿病教室

- 脱水~糖尿病患者さんに気をつけてもらいたいポイント~
- 知っているけど得をする睡眠と糖尿病の関係教えます

高脂血症教室

- 高脂血症と心疾患
- みんなで学ぼう!コレステロールのお薬 などなど...



編集 後記

新年ということで新たな試みとして広報誌をリニューアルしましたがいかがでしたでしょうか。昨年夏に私たち広報担当2名が入職しましたが、「みどりヶ丘病院」の魅力をもっと伝えていくにはどうすればよいか試行錯誤の毎日でした。今年は地域の皆様にもっと近いところで「みどりヶ丘病院」についてわかりやすく発信していくことを目標に邁進していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

INFORMATION

診療時間/9:00~12:00 (受付/8:15~12:00)	月	火	水	木	金	土
	○	○	○	○	○	○

(日曜・祝祭日及び年末年始は休診)
※受付終了時間は診療科によって異なりますので、各診療科までお問い合わせください。

ご意見、ご感想
お問い合わせはこちらまで



病院代表
電話番号

072-681-5717



社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院

〒569-1121 大阪府高槻市真上町 3丁目13-1 <http://www.midorigaoka.or.jp>